

## 東芝の「タイムシフトマシン」が更なる進化

待望の音声検索など  
アプリ充実で大画面の魅力を追求

家族との食事中、「今日は興味ない特番しか放送してないからつまらないねえ」なんて会話が交わされることがしばしばある。そんなときに威力を発揮してくれるのが東芝「REGZA Z8シリーズ」のタイムシフトマシンによる視聴スタイル。そして、そんな場面を演出するのに欠かせないのが使いやすいUIだ。今回は、前年よりも着実に進化を遂げたタイムシフトマシンのUIをレポートする。

使いやすいさと多機能性を両立させた「ざんまいプレイ」の素晴らしさは前回(2013年3月号)、本連載で取り上げた際にもお伝えした通り。

視聴者と番組をつなぐ架け橋になるという概念は、従来の録画機能が抱かれがちだった「リアルタイム視聴回避の要因」というネガティブなイメージ(放送局視点で)を覆すアプローチであり、実際にそれを実現できるだけの機能と使いやすさを兼ね備えていた。

さて今回、UI特性の向上という観点で大きな機能が追加された。スマホ・タブレットとの連携強化、つまり操作系アプリの充実だ。とりわけ大きな進化として紹介したいのが、音声検索を可能とした「RZボイスリモ」だ。

東芝が大量コンテンツ録画によるタイムシフトマシンの方向性を打ち出した段階から、個人的には「念願の機能」と言える音声検索。満を持しての登場というだけあって、さすがに中身は練られている印象を受ける。

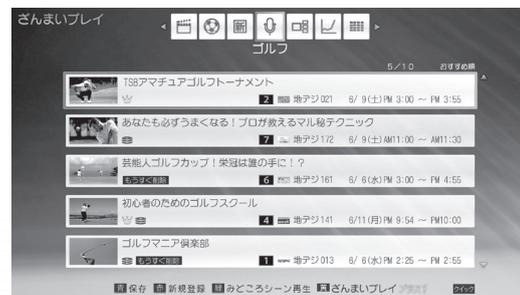
音声による録画番組の検索、未来番組を検索しての録画予約といった基本機能を備えていることはもちろんだが、キーワードは比較的緩めの設定。ざっくり番組名、あるいはそれに近いワードを拾い上げるのはもちろん、「昨日のゴルフ」「今日のニュース」などのかなり広範囲な発話も拾い上げる。

手元のモバイル端末には発話履歴が残るため、2回目以降の同じ検索はそこから選択することも可能。スマホ・タブレット側の操作画面は音声入力を含め極めてシンプルで、利用にあたって端末操作の習熟はさほど必要なさそうだ。

面白いのは、YouTube動画も音声入力から検索して視聴できる点。テレビ番組と比べるとかなり範囲が広がるが、高確率で対応できる模様。ちなみに「バックスクリーン三連発」と発話入力



スマホ画面



音声検索の結果(テレビ画面)

したところ、当方が求めた動画(85年のプロ野球・阪神タイガースの試合)を拾い上げてきた。

## 「大画面でテレビをみてもらうために」

アプリを充実させた狙いのひとつには「大画面をそのまま楽しんでいただく」(ビジュアルソリューション事業部VS第一部商品企画担当専事・本村裕史氏)があるという。

「お客様が50~60インチの大画面テレビを購入する理由は、やはり美しい動画を大画面で見たいから。その求める動画にたどり着くまでの手段を『スマートに』する手法がセカンドスクリーン。これこそがテレビが進むべき方向性と考えています」(本村氏)。

その他、クラウドと連携して見たいシーンの検索などを行える「TimeOn」を手元で操作できる「RZクラウド」、録画予約の確認や予約ランキングと連動した録画予約に対応する「RZ番組ナビ」、気になる芸能人の出演番組を追いかけ、かつ情報をシェアできる「追っかけスタ」など、多彩なアプリを用意。モバイル端末が持つ通信系

特性をうまく放送系サービスと組み合わせている。

利用スタイルとしては「ざんまいプレイ」との併用が基本になるだろうが、端末側からの積極的アプローチの色合いがある「ざんまい」に、「RZボイスリモ」をはじめとする各種アプリによってユーザの能動的視聴が加わり、タイムシフトマシンを楽しむための幅が一層広がった印象だ。

## BS/CSのタイムシフトにも対応

もうひとつ、BS/CSの1チャンネル丸録りを可能にした「タイムシフトプラス1」も見逃せない追加機能だ。チャンネル選択に難があり、かつ新聞ラテ欄掲載の位置などから見逃し発生率の高そうな有料多チャンネル系放送をより楽しめる機能。「ざんまい」や「ボイスリモ」にも対応している点も良い。

ややもすると「スマートテレビ」という言葉自体が形骸化しつつある昨今。独自の視点から「真にスマートなテレビ」を追求する東芝のタイムシフトマシンは、使いやすさを含めこれからも進化を続けてくれそうだ。

